

彙報 二〇一一年一月～六月

・二〇一一年度「特定・一般研究」の
研究組織について

・二〇一〇年度「決算」について

・二〇一一年度「予算」について

○「指定研究」研究成果報告会

◇春季公開講演会

五月二十四日（火）午後一時～

於 講堂

分別と戯論 本学教授 兵藤一夫
換喻・キャラクター・日本人

爽風会佐々木病院

精神科医 斎藤 環

○「指定研究」等研究補助員雇用契約に
ついて
・二〇一〇年度「指定研究」研究成果
に関する事務説明会

五月十日（火）午後〇時二十分～

於 韶流館真宗総合研究所

ミーティングルーム

・研究補助員の辞令交付
・雇用契約説明
・研究補助業務に関する事務説明

◇真宗総合研究所委員会
三月十日（木）午後一時～

於 博綜館第四会議室

真宗総合研究所

人間の絆を考える

—右石徹也の絵画を手がかりに—

本学教授 Robert F. Rhodes

◇『親鸞教学』第九十六号発行
(二月二十八日)

(三月三十日)

六月一日（水）午後四時（十分）

於 博綜館第四会議室

◇新入会員歓迎講演会ならびに総会
五月二十六日（木）午前九時～
於 韶流館メディアホール
真宗の学び 本学准教授 木越 康
○第一回真宗学会例会

六月二十九日（水）午後二時四十分～

於 尋源講堂

博士後期課程第二学年 青柳英司
博士後期課程第二学年 光川眞翔
発表者

仏教學会

◇卒業論文梗概発表会・送別懇談会

一月十三日（木）午後四時十分～

於 番源講堂・学生食堂

◇新入会員歓迎講演会

四月二十八日（木）午後一時～

於 韶流館メディアホール

学会活動報告

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度哲學年会・総会

『哲學論叢』第五十七号合評会

五月二十八日（土）

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

於 博綜館第五会議室

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度国史学会・日本仏教史学会

五月二十八日（土）

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度大谷大学日本史の会・月例会

五月二十六日（土）午後二時

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度大谷大学日本史の会・月例会

五月二十六日（土）午後二時

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度大谷大学日本史の会・月例会

五月二十六日（土）午後二時

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度大谷大学日本史の会・月例会

五月二十六日（土）午後二時

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

哲 學 會

文 藝 學 會

◇二〇一一年度大谷大学日本史の会・月例会

五月二十六日（土）午後二時

◇『文藝論叢』第七十六号発行
(三月A5版六七ページ)◇冬季研究会
三月十日（木）午後三時三十分

相互承認をめぐる考察

—リクールの『承認の行程』を中心

として—

会員 長谷川琢哉

◇『哲學論集』第五十七号発行

(三月二十二日)

〈目次〉

アリストテレスの中庸説再考 朴一功

超越と身体—田辺元の「人間学的哲学」

の構想—

竹花洋佑

天皇を神聖視するまなざしの衰退—

二〇世紀初期の社会調査にもとづく

民衆の皇室觀の再構成—右田裕規

自然と精神—ハーバーマスのフッサー

ル現象学批判について—

竹中正太郎

宗教はいかにして人を救うのか—ワイ

リアム・ジエイムズの救済論—

林 研

像ならびに東洋像について(1)

青木三陽

Holy Golightlyの「賢く」反知性主義

—Breakfast at Tiffany's考察—

石本哲子

動乱期の詩法—16世紀末の詩人ミシェル・キリアンをめぐって 林千宏

英 文 学 会

◇『英文学会会報』第三十七号発行
(三月)

〈目次〉

Silence and Eloquence in Frederick Douglas's "The Heroic Slave" and Herman Melville's "Benito Cereno": A Preliminary Study
Park Soon Young

夏目漱石とハロー・ヒューズ
—「三四郎」と『デイジー・ミラー』における視点と語り— 村瀬順子

教育・心理学會

生まる」との意義—難度海を度する意

味— 渡邊瑞歩
研究課題名別卒業研究・修了レポート
一覧

◇『大谷大学教育・心理学会 学会紀要』
『大谷大学人間形成論研究』創刊号發行
(三月二十日)

卒業研究・修了レポート指導担当者一覧

短期佛教科

◇『仏教研究紀要』第三十二号発行
(三月十八日)

〈目次〉

『仏教研究紀要』第三十三号の発刊に寄せて 本学学長 草野顯之
「人生のいちばん大切なものの」
仏教科主任 山野俊郎

卒業研究・修了レポート要旨
弥陀の誓願—本願に帰す信心—
金倉翔央

回心—「本当の自分」とは何か— 照岡祐美

淨土の慈悲—われら凡夫が生きる道—

伴戸了徹

菩薩の道—常不輕菩薩の礼拝行を中心